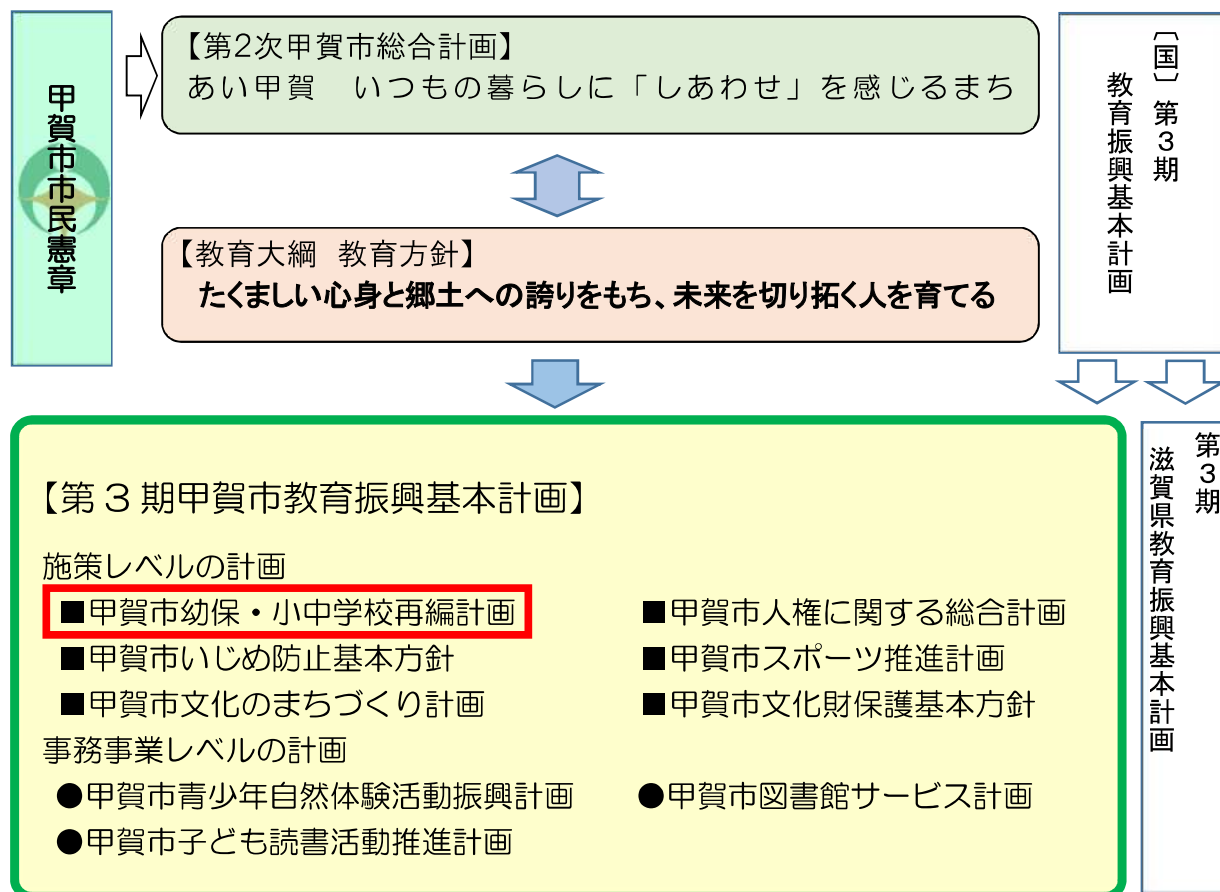


第 2 次甲賀市学校再編計画の位置づけ

第 3 期甲賀市教育振興基本計画（抜粋）



○「第 2 次甲賀市小中学校再編計画」は、第 4 期甲賀市教育振興基本計画の施策レベルの計画として位置づけられます



教育施策 の柱

B 学校教育・青少年の健全育成

(1) 学校教育の充実

⑥ 小中連携・一貫教育の推進

現状

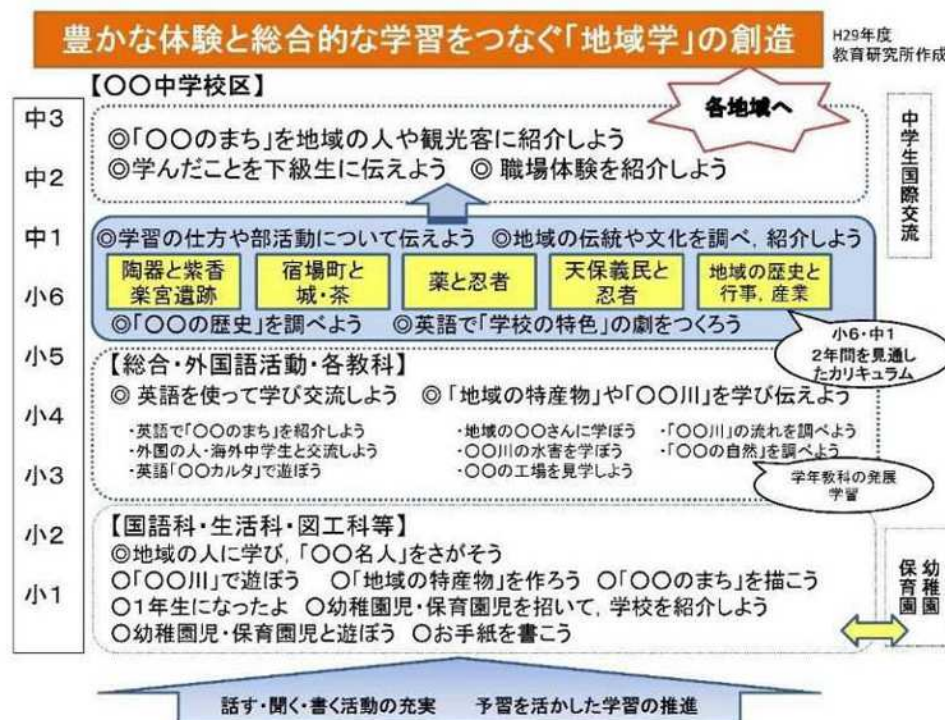
学校教育方針である「社会に挑む夢と力を蓄えた中3生」を育てるため、9年間の長期的で一貫した教育が有効と考え、小中連携の推進に取り組んでいます。

中学校教員が小学校で授業を行う中学校教員派遣授業や6年生の中学校体験入学、中学校区ごとの教職員研修会、交流などを通じて、小中学校のなだらかな接続、学びや指導の連続性を踏まえた一貫した教育をめざしています。

また、9年間を見通した教育課程の編成に関わって、本市では、平成30年（2018年）3月に、「小中一貫教育推進の特色づくり・こうか地域学」を発刊しました。

◆中学校教員派遣授業実績・中学校での授業体験実績

年度	中学校教員派遣授業	中学校での授業体験等
平成28年度 (2016年度)	6中学校で実施 市内計207時間	市内実施授業数合計 18時間
平成29年度 (2017年度)	6中学校で実施 市内計201時間	市内実施授業数合計 18時間



<小中一貫教育推進の特色づくり・こうか地域学 参考モデル>



課題

小中連携の推進に関しては、今後、学区に共通する課題を見極め、中学校区に共通した「めざす子ども像」を小中間で共有した上で、学びの連続性、目標・内容の系統性、学習規律の維持や家庭学習のあり方などの指導の継続性を踏まえ、意図的・計画的に一貫した取り組みをさらに進めていく必要があります。また、「小中一貫教育推進の特色づくり・こうか地域学」をもとに各中学校区ごとの教育課程の編成を行い、実践と見直しを重ねていく必要があります。

さらに、中学校教員派遣事業においては、小中学校教員が協力して授業案を作成するなど取り組みを通じて、相互に児童生徒観や指導観に深まりと広がりをもたせ、それぞれの学校における授業改善につなげていく必要があります。

今後6年間に進める主な取り組み

中学校区ごとに、地域の実態や特徴に応じた教育目標を設定し、9年間を見通した小中一貫の教育課程を編成することを目標として、小中一貫教育の推進に努めていきます。

小中連携、小中児童生徒交流を通じて、小学校から中学校へと円滑につないでいきます。

①小中一貫した教育課程の検討

✧ 小中連携推進会議

⇒9年間を見通した教育課程・教育内容の協議を行います。

✧ 各中学校区小中連携事務局会議

⇒各中学校区において、それぞれの地域の特色を生かした教育課程・教育内容の協議を行います。

✧ 小中教職員合同研修会

⇒各中学校区において、小中の教員が合同で、全員研修や教科部会等を行い、職員間の交流や授業改善を図ります。

②教員・児童生徒の相互交流や小中の段差解消に向けた取り組み

✧ 中学校教員の派遣・中学校1日体験入学

⇒中学校教員が、校区内の小学校6年生に出前授業を行います。また、小学校6年生が中学校での1日体験入学を行います。

✧ 小中連絡会

⇒小中学校双方の指導方法や支援のあり方について工夫改善につなげるため、連絡会議を行います。



教育施策 の柱

B 学校教育・青少年の健全育成

(1) 学校教育の充実

⑦ 地域学の推進と特色ある学校づくり

現状

児童生徒の豊かな人間性や社会性を育む上では、人やものとの直接的なふれあいを通じた学びや、豊かな地域の自然や伝統、歴史を教材とした「地域学」に取り組むなどの教育活動が重要です。各学校はそれぞれに歴史と伝統をもち、長きにわたりその特色を活かした教育で成果を上げてきました。本市では、地域人材を活用しての学習を推進するため、学びの支援事業を実施しています。その結果、多くの地域人材に協力いただき、学校ごとに多様な学習が実践されるようになりました。

また、全中学校では、2年時に1週間にわたる職場体験実習が実施され、地域の事業所で働く体験を通して、勤労観や職業観を育てるだけでなく、地域の人たちとのふれあいを通して、地域の良さを見つめ直す貴重な機会となっています。

各校の生活科や総合的な学習の時間、特別活動の年間計画立案時や各教科単元指導内容との関連もさぐりながら、地域学をより充実させていくために、平成30年（2018年）3月に「小中一貫教育推進の特色づくり・こうか地域学」を発刊し、4月に全教職員に配付しました。

【主な取り組み事例】 （一部を掲載）

- ・ 郷土芸能の継承をめざした水口囃子の活動
- ・ 校内に設置された土俵を使った相撲
- ・ 特産品を活かした茶業体験
- ・ 地域と一体となって花壇づくり
- ・ 愛鳥活動
- ・ 伝統産業信楽焼を活かした作陶体験
- ・ オペレッタの上演
- ・ 体育祭における平和行進
- ・ 森林組合と協力した愛林活動



課題

これまで各学校では、長きにわたり独自の特色を活かした教育活動が行われてきました。今後はさらなる教育内容の質の向上に向けて、児童生徒の姿や地域の実態等も踏まえ、各学校の教育課程を見直し、特色を活かした教育課程の編成を図っていく必要があります。そのためにも、特色のある「地域学」をさらに充実させ、教育内容等と各教科・領域を横断的な視点で組み立てていくことが必要となります。

また、これまでも小学校と中学校の連携は図られていましたが、今後は小中学校9年間を通して、甲賀の豊かな自然や伝統、歴史を学ばせることが大切であり、地域の発展に尽くそうとする資質や能力を育てる意味においても、「地域学」を教育課程に位置づける必要があります。

今後6年間に進める主な取り組み

市内小中学校が、自校の教育課程をもとに、「小中一貫教育推進の特色づくり・こうか地域学」を組み入れながら、義務教育9年間を見通した教育課程の見直しを図ります。そして、各学校で実践・評価・改善を行い「地域学」を活かした教育実践を進めていくことで郷土を誇りに思い、地域に参画していこうとする子どもの育ちをめざしていきます。さらに、同一中学校区内での連携を強化し、その地域の特色を活かした教育の推進に取り組んでいきます。

①地域学の推進と総合的な学習の充実

✧ ふるさと甲賀の地域学習推進

⇒「地域学」を意識した教育課程を編成・実践・評価・改善をし、郷土を愛する児童生徒を育成します。

✧ 社会科副読本「わたしたちの甲賀市」の改訂

⇒市や人々のこと、農業や産業のこと、市の発展の歴史を深く学習できるよう、小学校社会科副読本「わたしたちの甲賀市」を学習指導要領改定時期に合わせて改訂していきます。



<社会科副読本>



教育施策 の柱

B 学校教育・青少年の健全育成

(2) 教育環境の充実

① 将来を見据えた適正な学校教育環境の整備

現状

市内には、平成30年（2018年）4月1日現在、27の小中学校（小学校21校、中学校6校）があり、平成26年度（2014年度）までに全ての学校において耐震補強工事を完了し、平成29年度（2017年度）から、普通教室等にエアコン整備、トイレの洋式化を行うとともに、大規模改造工事についても順次整備を進めています。

◆学校別建築年一覧（平成30年（2018年）4月1日基準）

学校名	代表棟 建築年 (※)	経過 年数	大規模 改造年	学校名	代表棟 建築年 (※)	経過 年数	大規模 改造年
伴谷小学校	H3	27	H31 予定	甲南中部小学校	S48	45	
柏木小学校	S52	41	H23	希望ヶ丘小学校	S59	34	H29
水口小学校	S35	58	H29	信楽小学校	S47	46	
貴生川小学校	S54	39	H18	雲井小学校	S51	42	
綾野小学校	S56	37	H20	小原小学校	H18	12	
伴谷東小学校	H14	16		朝宮小学校	S51	42	
大野小学校	S53	40		多羅尾小学校	H8	22	
土山小学校	S61	32		水口中学校	S52	41	H16
大原小学校	S51	42	H10	城山中学校	S60	33	H31 予定
油日小学校	S47	46	H2	土山中学校	S56	37	
佐山小学校	S53	40	H7	甲賀中学校	S57	36	H29
甲南第一小学校	S51	42	H29	甲南中学校	S56	37	H24
甲南第二小学校	S52	41		信楽中学校	S47	46	H18
甲南第三小学校	S54	39					

※複数棟の内、代表棟の建築年を記載



<甲南第一小学校>



また、地域により少子化の進行に差があることから、市内における教育環境に地域間格差が広がる懸念されます。

このことから、平成27年（2015年）3月に甲賀市幼保・小中学校再編計画（基本計画）を策定し、再編の諸課題について保護者や地域の代表に協議いただく再編検討協議会の設置を進めています。

再編検討協議会での度重なる議論の結果、平成28年度（2016年度）末に山内小学校、平成29年度（2017年度）末に鮎河小学校を閉校しました。

佐山学区では、現状の教育環境が望ましく、小学校を存続させるとの結論を出されました。引き続き、全ての地域で再編検討協議会を設置いただけるよう、働きかけを行っています。

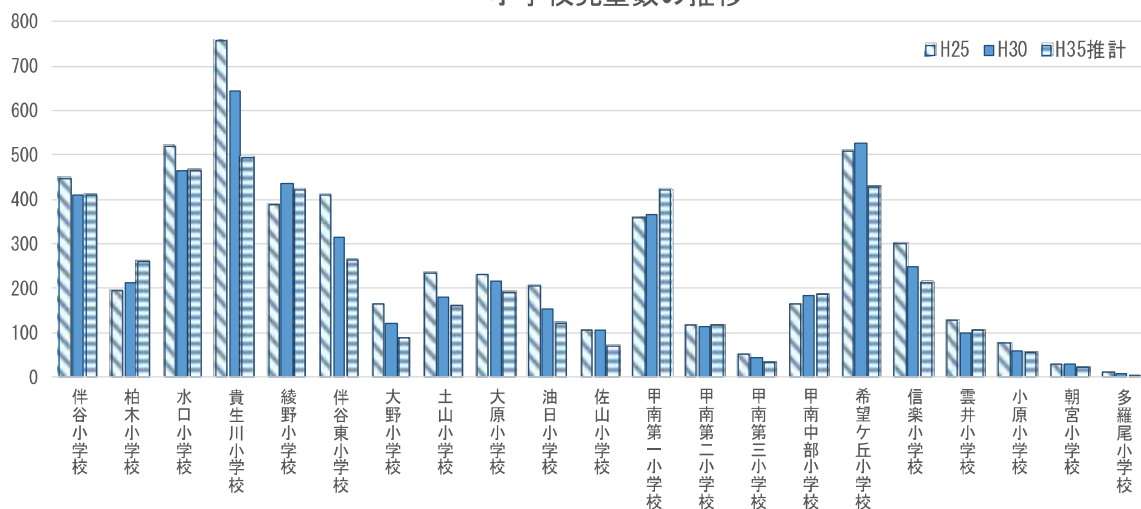
◆小学校児童数の推移（各年5月1日現在）

（単位：人）

学校名	H25	H30	H35 推計	学校名	H25	H30	H35 推計
伴谷小学校	446	410	410	甲南第一小学校	358	364	422
柏木小学校	195	211	260	甲南第二小学校	118	113	115
水口小学校	519	463	466	甲南第三小学校	52	43	34
貴生川小学校	757	643	493	甲南中部小学校	166	182	185
綾野小学校	387	435	420	希望ヶ丘小学校	510	527	428
伴谷東小学校	408	314	264	信楽小学校	301	247	211
大野小学校	164	120	87	雲井小学校	129	99	107
土山小学校	234	178	159	小原小学校	75	57	55
大原小学校	231	215	189	朝宮小学校	28	27	20
油日小学校	204	155	120	多羅尾小学校	10	8	5
佐山小学校	104	104	70	計	5,396	4,915	4,520

※H25年の鮎河小、山内小の児童は土山小に含んでいます。

小学校児童数の推移



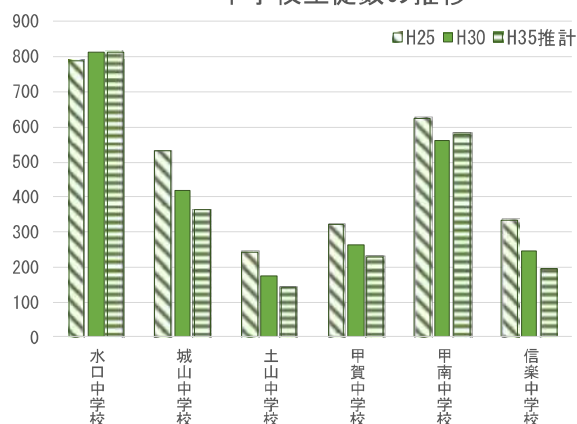


◆中学校生徒数の推移（各年5月1日現在）

（単位：人）

学校名	H25	H30	H35 推計
水口中学校	787	813	812
城山中学校	530	417	363
土山中学校	243	175	141
甲賀中学校	320	264	227
甲南中学校	622	561	579
信楽中学校	332	245	196
計	2,834	2,475	2,318

中学校生徒数の推移



課題

市立小中学校の大半が、昭和40、50年代に建築されており、施設の老朽化が進んでいます。

これらの学校をここ数年間で改修や改築をしようとする、一時的に多額の事業費が必要となることから、建物の状態を見極めた上で、計画的に機能回復と延命を図っていく必要があります。

家族形態や兄弟姉妹の減少、保護者の就労形態の変化など、子どもたちを取り巻く社会環境は大きく変化しており、様々な教育課題が出現しています。また、少子化の進行は一部の地域を除き多くの学校で小規模化をもたらし、教育環境に地域差が生じています。

このことから、老朽化が進む施設の整備も含め、子どもたちにとって最適な教育環境の整備が必要です。



<甲賀市幼保・小中学校再編計画 概要版>



今後6年間に進める主な取り組み

学校施設は次代を担う子どもたちが集い、生き生きと学び、生活をする場であるとともに、地域住民にとって生涯にわたる学習・文化・スポーツなどの活動の場であり、また、災害時には避難所としての役割も果たす重要な施設であります。そのため学校施設の老朽化対策は重要な施策であり、令和元年度（2019年度）策定の「小中学校施設長寿命化計画」に基づき、整備を進めます。

学校再編では、具体的な検討を進める際の指針となる「甲賀市幼保・小中学校再編計画（基本計画）」を基に、将来の地域の姿を描きつつ、次代を担う子どもたちのより良い教育環境の提供を最優先に、これからの教育環境のあり方等について、保護者や地域の代表と協議し、合意を得ながら適正な教育環境の整備に努めます。

①学校教育環境の整備

✧ 小中学校施設の改修

⇒長寿命化計画に基づき、学校の施設整備を行います。

✧ 再編検討協議会運営

⇒小学校区を基本とした再編検討協議会を設置し協議を行います。再編の合意が得られた場合は、新しい学校づくりに向けた実施計画検討協議会を設置し、調整を行います。

B 学校教育・青少年の健全育成/(1)学校教育の充実/⑥小中連携・一貫教育の推進			
教育施策の柱	成果	課題	施策の方針
B(1)⑥	9年間を見通した教育課程・教育内容の協議を行います。		○義務教育期間9年間を見通した各中学校区の地域の特色を活かした小中一貫の教育課程の編成を目標として、小中一貫教育の推進に努めます。
	各中学校区の実情に合わせ、小学校への中学校教員派遣授業や小学6年生の中学校体験入学、中学校区の教職員研修会等の交流を通じて、小中のなめらかな接続、学びや指導の連続性を踏まえた取り組みができた。	「小中一貫教育の特色づくりとしてのこうか地域学」の実践および推進を図ることが必要である。	
	各中学校区において、それぞれの地域の特色を生かした教育課程・教育内容の協議を行います。		○中学校教員の出前講座や小学6年生の中学校一日体験入学等、教員・児童生徒の相互交流を深め、小中の段差解消に向けた取り組みを推進します。
	各中学校で、共通した「めざす子ども像」を共有したうえで、学びの連続性、目標・内容の系統性、学習規律の維持等の指導の連続性をふまえ、計画的に協議を進めることができた。	「小中一貫教育推進の特色づくり・こうか地域学」をもとに各中学校区ごとの教育課程の編成を行い、実践と見直しを図る必要がある。	
	各中学校区において、小中の教員が合同で、全員研修や教科部会等を行い、職員間の交流や授業改善を図ります。		
	教育研究所の研究を通して、各学校の校内研究の内容を共有できる場を設定し、教職員間の交流や授業改善が図れた。	校内研究の内容を共有するだけでなく、さらに同じ中学校区であるからこそできる取組を行っていきたい。	
	中学校教員が、校区内の小学校6年生に出前授業を行います。また、小学校6年生が中学校での1日体験入学を行います。		
	中学校教員の校区内小学校への出前授業や、小学校6年生の中学校への一日体験入学を行うことで不安を軽減し、小学校6年生が中学校へスムーズに入学することができた。	小中学校間での教育課程の調整や十分な情報交換ができていない場合があるため、小中学校教職員間での事前・事後の話し合いが必要である。	
	小中学校双方の指導方法や支援のあり方について工夫改善につなげるため、連絡会議を行います。		
	連絡会議を行うことで、教職員間の研修にもつながり、指導方法の改善や児童生徒の情報共有や連携の必要性の再確認をすることができた。	指導のねらいを明確にし、連絡会議の頻度や場の持ち方を工夫することが必要である。	

B 学校教育・青少年の健全育成/(1)学校教育の充実/⑦地域学の推進と特色ある学校づくり

教育施策の柱	成果	課題	施策の方針
B(1)⑦	「地域学」を意識した教育課程を編成・実践・評価・改善をし、郷土を愛する児童生徒を育成します。		○各校の教育課程をもとに小中一貫教育推進の特色づくり・こうか地域学を組み入れながら、義務教育9年間を見通した教育課程の見直しを図ります。
	甲賀市社会科副読本を改訂するとともに、それを使用した検証授業を行うことによって、甲賀市に根差した授業研究が進んだ。	より地域に根差した授業を実践していくため、さらに研究を深め、次回の社会科副読本の改訂をよりよいものにしていく必要がある。	
	市や人々のこと、農業や産業のこと、市の発展の歴史を深く学習できるよう、小学校社会科副読本「わたしたちの甲賀市」を学習指導要領改定時期に合わせて改訂していきます。		
	令和4年度に改訂作業を行い、令和5年度に改訂版を発行した。次回、令和8年度の改訂作業に向け、副読本委員会を組織し、研究授業を行い、副読本について協議を実施している。	授業で使用されている、副読本の授業でのより有効な活用方法を考えていく必要がある。	

B 学校教育・青少年の健全育成/(2)教育環境の充実/①将来を見据えた適正な学校教育環境の整備

教育施策の柱	成果	課題	施策の方針
B(2)①	長寿命化計画に基づき、学校の施設整備を行います。		○甲賀市小中学校長寿命化計画に基づき長寿命化や改築を実施するとともに、日常的な維持管理により児童生徒が安心して学ぶことができる学校施設となるよう管理します。
	甲賀市小中学校施設長寿命化計画の優先順位に基づき、土山中学校の長寿命化工事を実施した。	今後、児童生徒数の減少や、宅地開発等に伴う一時的な増加により、計画の見直しが必要になることが想定されることから、各施設の状況等を踏まえた柔軟な対応が必要である。	
	小学校区を基本とした再編検討協議会を設置し協議を行います。再編の合意が得られた場合は、新しい学校づくりに向けた実施計画検討協議会を設置し、調整を行います。		○各地域の再編検討協議会からいただいた答申を踏まえつつ、真に児童生徒にとって適切な学習環境を提供できるよう検討を行います。
	全対象地域で再編検討協議会を設置いただき、全ての協議会から再編にかかる報告書を受領し、再編にかかる意思について確認できた。	一部再編の合意をいただいた協議会はあるものの、新しい学校づくりに向けた実施計画検討協議会の立ち上げまでには至れなかった。	